

主の受難の主日（枝の主日）の説教

金 大烈 神父 2009年4月5日（日）

おはようございます。

さあ作り話から始めたいです。太平洋を横断する旅客船がありました。ある時ある所まで来て船は激しい嵐にあい、漂流してある島に着きました。救助されるまで船にどの位食糧があるか調べたら、船に乗っている人たちが2ヶ月食べられる分位ありました。その島の土を調べるととても肥沃な土でした。ここの土は作物が作れるだろうと結論が出て、土を耕すために掘り始めたんです。掘り始めたとたんに皆が大きな声で叫びました。なぜなら掘る場所掘る場所から金が出てきたからです。人々は土を耕すことを忘れて金を掘りました。金を掘ることを味わった人たちはそのおもしろさで土を耕して農作物を作ることを忘れました。皆救助されたらその金を持って帰ろうという夢を持ちました。しかし、時間が経ってしまって、寒い冬が来ました。そして、やっと、人々は気がつきました、金はあるが食べ物がないことに。結局、一人ずつ飢えて死んでいったという話です。彼らは自分たちにとって一番必要なこと大事なことを忘れていました。

なぜならピカピカ光る金の色を見て心を失ったからです。

今日生きている私たちはどうですか？何を求めているんですか？今求めているものは、それが私たちの人生で本当に大事なことですか？それがなければ死んでしまうのでしょうか。このようなことを考える日が今日の枝の日曜日です。

「ホザンナ ホザンナ」と叫んだ口と「十字架につける！十字架につける！」と叫んだ口は全く同じ口です。なぜ「ホザンナ ホザンナ」と叫んだ口が何日も経たずに「十字架につける！十字架につける！」と叫んだんでしょう？変わったのはなぜか。推測してみますと、エルサレムに入るイエス・キリストのことを人々は自分たちを“助けてくれる人”だと思ったんでしょう。政治的、経済的、社会的、いろいろな理由からこのイエスという人物は私たちを助けてくれる人だという噂が広まったと思います。それで枝を大きく振りながらイエスを大歓迎したんでしょう。しかし、イエス様がエルサレムに入ってからいろいろ話すのを聞いたり行うことをみたりしたら、自分たちが求めているもの、目的とは反対ものだ気がついたんです。自分たちが必要としているものをこの人からは得られない、かえって今よりもっと複雑になると思った。イエスが生きてると惑わされるので「殺せ」「殺せ」と叫んだのです。結局彼らにとってキリストは必要がない人物だったじゃあないでしょうか。

昨年枝の日曜日に話したことは今日皆様に話したこととほとんど同じ内容だと思います。私たちは緊張しなければならないんです。私たちの心の中にはいつも「十字架につける！」と叫ぶ心と「大歓迎します。ホザンナ ホザンナ」と叫ぶ心が一緒に存在します。この二つの心、どちらにいくかはやっぱり必要性です。私は何を必要としているのか。その必要としているのが正しいことなら皆様は幸せな人々です。まちがえて必要じゃないものを必要なものと錯覚してしまうと、一番大事なものを殺してしまう。私たちはこのことを意識しなければなりません。私たちは普通に生活しています。いろいろな人々と関わって生きていきます。その中で一番必要としていることを守りながら求めながら生活しているかどうかは紙一枚の差です。この心を失ってしまうとすぐに負けます。枝を振る心、あなたは私にとって絶対必要ですという叫びを死ぬまで続けましょう。

皆様、家に帰られたらこの枝を家全ての十字架に飾って下さい。そして一年間よく考えて下さい。来年の枝の主日に私は同じ質問をします。この一年間、勝ちましたか？負けたんでしょうか？勝ったほうが多かったんでしょうか？負けたほうが多かったんでしょうか？本当に必要なものを求めてきたんでしょうか？それほど大事じゃないものに命を懸けてきたのではないのでしょうか？何が一番大事かを意識して探しましょう。

今日から聖週間に入ります。聖木曜、聖金曜、土曜の復活徹夜祭、復活の日曜日。皆様が四旬節を

どのように過ごしてきたかわかりません。この一週間もっと強く深く集中し、私にとって何が大事か、なぜ神様が私のために死んだのか、私がどれくらい神様に愛されているか、私は何を拒んでいるか黙想しすばらしい一週間にしましょう。

ありがとうございました。